

令和 7 年度「熊本大学病院医療助成金」使用実績報告書

(一般財団法人恵和会寄附金)

使用者 (代表者)	氏 名	所 属	職 名
	入江 弘基	救急部	教授
グループ全員 (記入欄が不足 する場合、別紙 に記入)	小川 克大	救急部	助教
	児玉 了	リハビリテーション部	療法士長
	嶋村 梨沙	リハビリテーション部	療法士
	蓑田 健太	リハビリテーション部	療法士
	中村 文音	HCU	看護師
活動テーマ	HCUにおける早期離床・リハビリテーションの実施		
助成金額	500,000円	助成金使用総額	500,000円
【使用内訳】			
リハビリテーション器具		38,6700円	
消耗品		31,300円	(内訳) ファイル・ケース等
その他		82,000円	(内訳) 学会情報収集費
成 果 (※具体的な効果および自己評価も含め1,000字程度)			
高齢社会の進行に伴い、急性期病棟では入院患者の ADL 低下や廃用症候群のリスクが高まっている。2022 年度診療報酬改定では早期離床・リハビリテーション加算の対象が拡大され、早期介入の重要性が再認識された。 当院ではこの背景を踏まえ、2025 年 3 月よりハイケアユニット (HCU) において医師・看護師・理学療法士による早期離床リハビリテーションチームを立ち上げた。チームは入室患者の状態を評価し、運動・呼吸・摂食嚥下・排泄などの機能維持・改善を目的とした支援プロトコルを関係学会の指針に基づき作成した。 プロトコルに基づき、看護師はポジショニングや体位変換、口腔ケアなどの基本的ケアを計画・実施した。加えて、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が計画段階から関与し、離床支援や筋力維持、耐久性向上に向けた介入を行った。看護師は全身管理や安全確保、精神的支援、家族調整を担う中心的存在であり、個別性に応じた支援を実践できるよう学習会を実施し、知識と技術の向上を図った。			

2025 年 6 月より本取り組みを本格導入し、HCU 入室患者全員を対象に、入室 48 時間以内に看護師主導でリハビリテーションを開始する体制を整備した。2025 年 6 月から 2026 年 1 月までの 8 か月間における HCU 入室患者は 998 名、延べ患者数は 3,123 名であった。カルテ監査では、48 時間以内の介入実施率は 100%であった。平均在室日数は 2.7 日で前年度と大きな差はなかったが、廃用症候群に起因する全身状態悪化による再入室例は認めなかった。

本取り組みにより、HCU における早期介入の質と一貫性が向上したと考えられる。急性期における早期からの機能維持・回復支援は予後に影響することから、本モデルは院内全体への展開に有用であると示唆された。

別紙【グループメンバー（上述以外）】

	氏 名	所 属	職 名
グループ全員	中村 由実子	HCU	看護師
	上別府 明史	HCU	副看護師長
	村上 志穂	HCU	看護師長